

# 令和2年度 第3回 帯広市地域包括支援センター運営協議会議事概要

日時 令和3年2月17日(水) 18:55~19:15

場所 帯広市役所 10階第2会議室

出席者 井出委員 鬼崎委員 杉野委員 鈴木委員 鳴海委員 濱委員 村上委員 (五十音順)

(事務局) 地域福祉室: 毛利室長 地域福祉課: 家内課長補佐、堀主任、稲場主任、岩佐係長  
介護高齢福祉課: 内藤課長、藤原課長補佐

## 1. 開 会 (18:55)

会議の成立について、委員8名中8名の出席があり、「帯広市地域包括支援センター運営協議会設置要綱」第6条第2項により成立していることを報告。

## 2. 議 題

### (1) 帯広市地域包括支援センター運営協議会所掌分

**報告事項1** 指定介護予防支援事業等の一部を委託する居宅介護支援事業所の選定

資料に基づき事務局より説明。前回報告時より追加があった帯広市社会福祉協議会、愛仁園分について報告。

**報告事項2** 地域包括支援センター人員体制

資料に基づき事務局より説明。前回報告時より変更があった愛仁園について報告。

**報告事項3** 地域包括支援センター実績報告

資料に基づき事務局より説明。前年より増減の大きい項目について報告。地域ネットワークづくり実施回数がコロナの影響により減少。対応困難事例対応件数は年々増加傾向。地域ケア会議は今年度より実績加算を導入、感染対策を講じながら実施しており例年なみ。認知症サポーター養成講座は今年度から全小中学校で実施していることから受講数が大きく増加。

**報告事項4** 地域包括支援センターの評価指標を活用した業務チェックシート報告

資料に基づき事務局より説明。全体的にはほとんどの分野で全国調査結果を上回っているが、継続的・包括的ケアマネジメント支援の分野は達成状況が若干低い。

### 【質疑・応答】

質疑はなし。

委員 コロナの影響により地域包括支援センターの活動がもっと停滞しているかと思っていたが、前年と比べると少ない部分はあるものの、可能な限り取り組んでいるのではないかとと思われる。

## 協議事項 1 令和3年度地域包括支援センター事業実施方針（案）

資料に基づき事務局より説明。引き続き地域包括ケアシステムの構築の推進を基本的な方向性とする。主な変更部分は、感染症対策について新規追加、認知症施策の推進について第8期計画の充実事項であるため記載を追加。

### 【質疑・応答】

- 委員 チームオレンジについて。国では今まで100万人を目指して認知症サポーターを養成してきたところ。認知症サポーターの研修を受けた方々がそのままになっていたのを、これからチームオレンジという形で役割をもっていただくということかと思うが、具体的にどう支援をつなぐ仕組みをつくっていくのか、どのようなことを考えているのか。
- 事務局 具体的には来年度以降検討しながらすすめていくことになる。今の時点では認知症サポーター養成講座を受けた方が更なるステップアップができる講座などを計画している段階。
- 委員 例えば、認知症の方やその家族、介護者の方々への支援を強化していく役割として認知症サポーターの力を借りることも考えているのか。帯広市としてどう考えるかということもあるし、国の方ではどういったことを示しているのか。
- 事務局 チームオレンジについては、認知症や家族の方のニーズと地域での支援をマッチングしていくこと、認知症の方の社会参加がもたれられており、チームオレンジの構成員として当事者が入ることとなっている。国があげている支援の具体例としては、声掛けを行う、話し相手、外出の時の同行支援などがあり、専門職でなくてもできる支援体制をつくり、支援する人と支援を望む人たちをつなぐイメージ。
- 委員 認知症サポーター養成講座を受けて役にたちたいと思っている方がたくさんいると思うが、そういう方々の力があるとよい方向に変わっていくと思うのでぜひすすめてもらいたい。
- 委員 以前は認知症サポーター養成講座でアンケートをとり、受講後に協力できるかどうかを聞いていたが今は行っていないのか。
- 事務局 アンケートはとっており、今後市のイベントなどのご案内を希望するか、活動に協力できるかを聞いている。
- 委員 割合でいうとどのくらいの方が協力できると答えているのか。
- 事務局 手元に資料はないが、学校や企業での実施もあるのでほとんどの方に書いてもらっているという状況ではない。
- 委員 認知症サポーター養成講座はキャラバンメイトが行うが、キャラバンメイトの研修は認知症の指導者研修を受けた方が実施している。この方々はまさに認知症で一番多く研修を受けている人達であり、認知症の指導者でありプロ。そういった方やキャラバンメイトは帯広にどの位いてどういった役割を果たしているのか。以前その方達に認知症初期集中支援チームに入ってもらったらと提案したことがある。

事務局 キャラバメントの数は令和2年度7月末現在で138名となる。  
初期集中支援チームの検討委員会のメンバーには入っていただいている。

委員 認知症サポーターが活躍するときに、こういう方々と一緒に活動できたらいいのではないかと思う。

委員 チームオレンジについては、今まで認知症サポーター養成講座を受けた方も含めて構築を考えているのか。  
また、小中学生などの子供達も含めて地域として考えているのか。

事務局 詳細の取り組み内容は、今後関係する方々と協議しながら決めていきたいと考えている。小中学生を巻き込んでいくというのはまだ具体的に考えていないが、これまでに認知症サポーター養成講座を受けた方は想定している。その他に生活支援体制整備事業において、地域での支え合いや活動を実践できる人としてちよつとした支え合いサポーターを養成しており、活動内容が重なる部分もあるので、うまく連携させながら取り組んでいきたい。

委員 帯広市の仕組みとして、高齢者の場合は、介護保険課、高齢者福祉課、社会課、とういうような縦割りになってしまう、さらに子供の場合は、何歳ならどこ、というくりになってしまう弊害がある。  
地域を全体的にみて取り組みができるとうい。地域包括支援センターだけで抱えるのは限界がある。いろいろな分野の方に協力がもらえるような地域づくりができればいいのではないか。役割としてできることがあればお話をいただきたい。

委員 認知症サポーター養成講座は今まで受講者がその後何かの役割を担うということより、認知症の方への偏見をなくす普及啓発の意味や認知症を理解していただくことを目的にやってきた面も大きい。第8期計画からは、そういった方をどう巻き込んでやっていくか、具体的に動いていくことになるかと思う。

## (2) 地域密着型サービス運営委員会所掌分 (19:15~)

別途報告

## (3) その他

事務局より、令和3年度第1回の開催は5月に予定していることを連絡。

## 3. 閉会 (19:45)